

- 30日から1月1日頃にかけて強い冬型の気圧配置となるため、北日本から西日本にかけての日本海側を中心に大雪や大荒れとなるおそれがあり、平地でも大雪となるおそれがあります。東日本と西日本の太平洋側の平地でも積雪となるところがある見込みです。その後も日本海側を中心にさらに降雪量が増えるおそれがあります。
- 大雪による立ち往生等に警戒が必要です。不要不急の外出は控えて下さい。
- やむを得ず自動車を運転する場合には、冬タイヤの装着、チェーンの携行及び早めの装着をお願いします。
- 降雪状況により、集中除雪による通行止めやチェーン規制を実施する場合があります。広域迂回の実施や、通行ルートの見直しなどのご協力をお願いします。
- 公共交通機関においても、大規模かつ長時間にわたる遅延や運休が発生するおそれがあります。
- 最新の気象情報や交通情報等に留意し、外出が必要な場合には、十分な時間的余裕を持って行動いただくようお願いします。

【1. 今後の気象の見通し】

28日11時時点

<大雪に警戒が必要な時間帯> 大雪:↔

	29日	30日	31日	1日	2日
北海道地方					
東北地方		↔			
関東甲信地方		↔			
北陸地方		↔			
東海地方			↔		
近畿地方		↔			
中国地方		↔			
四国地方			↔		
九州北部地方		↔			
九州南部		↔			

大雪の見通し(単位センチ)

地域	30日12時までの 24時間降雪量	31日12時までの 24時間降雪量
北海道地方	20～40	20～40
東北地方	20～40	30～50
関東甲信地方	5～10	40～60
北陸地方	10～20	60～80
東海地方	10～20	30～50
近畿地方	5～10	50～70
中国地方	20～40	50～70
四国地方	1～5	10～20
九州北部地方	1～5	20～40
九州南部	0	10～20

その後、日本海側を中心にさらに降雪量が増えるおそれ。
※各地の気象台が発表する気象情報等に留意ください。
最新の気象情報については、気象庁HPをご覧ください。
(<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>)

【2. 過去の大雪における立ち往生事例】

令和2年12月14日から令和2年12月21日にかけての大雪

<大雪のため、大規模な立ち往生が発生 2,000台以上>

- 令和2年12月14日から令和2年12月21日にかけて、日本付近は強い冬型の気圧配置が続き、上空には強い寒気が流れ込み続けました。この影響で、北日本から西日本の日本海側を中心に断続的に雪が降り、14日から21日にかけての期間降雪量が200センチを超えるなど、関東地方や北陸地方、東北地方の山地を中心に大雪となりました。
- 関越自動車道で、2,000台を超える大規模な立ち往生が発生し、車両の移動および通行止め解除に2日以上要しました。



関越自動車道の立ち往生発生状況
令和2年12月18日(金)

【3. 整備局など現場の対応状況】

- 「大型車等の立ち往生が発生」または「大規模な立ち往生の発生のおそれがある場合」には、予防的な通行止めを行い、集中的な除雪作業を実施します。